

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202270		
法人名	社会福祉法人 江寿会		
事業所名	グループホームサンホーム江上 Aユニット		
所在地	長崎県佐世保市江上町4847-10		
自己評価作成日	平成28年12月5日	評価結果市町村受理日	平成29年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成29年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・自然豊かな立地に面しており環境に恵まれている。地蔵花苑があり外気浴、散歩、ピクニック、花見等を楽しむことができる。また、GHからは大村湾が一望できハウステンボスの夜景や花火も楽しむことができる。GHの横には、畑もあり野菜を育てることもできる。職場内・外で研修や勉強会多く職員のレベルアップに努めている。委員会や様々な行事等を通して他部署との交流ができており連携が取れている。地域行事への参加、実習生、地域ボランティアの受け入れも積極的に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は法人の広い敷地内に位置している。広い敷地は、散歩や外気浴、庭園での昼食、季節の花見など戸外での楽しみを味わえる自然豊かな環境である。事業所は入居者の自己意思、自己決定を尊重し、その人らしく生活できるよう支援することを理念に掲げ、個別支援に力を入れており、一人ひとりの外出や外食など支援は多彩である。煙草やビールなど嗜好品も職員の見守りで、楽しんでいる。支援計画票には、本人・家族の希望を本人の発した言葉のまま記載し、思いに沿った支援計画を立て、計画に沿った実践と評価、見直しを定期的に行っている。職員の研修受講は、法人のバックアップ体制があり、職員の勤労意欲と支援のレベル向上に繋がっている。入居者本人ができる家事を職員と一緒にしており、優しく家庭的な雰囲気がある。今年初めに着任した管理者同士のコミュニケーションもよく、今後の進化を期待したい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ会議やその日の反省等で見直しや検討を行い共有し実践に繋げているが、地域密着型サービスの意義を踏まえた支援は十分ではない。	事業所の理念とユニット毎の理念を玄関や事務所内の目につく場所に掲示している。理念である「入居者の自己決定を尊重し、その人らしい生活継続と笑顔あふれるホーム」を目指し、日々実践に繋げている。特に入居者の思いや本人の力を大切に支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	積極的に地域行事に参加したり、実習生やボランティアの受け入れをし交流が図れている。	管理者は地域の公民館や小・中・高校で、認知症サポーター養成講座や介護教室の講師を務めている。大学生の実習受け入れ、米軍ボランティアによるホームの窓拭きなど、地域と交流を図っている。地域の行事などの情報は運営推進会議等で情報を得ており、積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を地域の団体や学校等で開催している。また運営推進会議にて支援内容を報告し意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回定期的に行っている。活動や状況報告、意見交換等を行い、サービスの向上に努めている。また避難訓練の見学もしていただいている。	年6回、入居者も参加し規程のメンバーで開催している。入居者状況、行事、事故報告のあと、意見や情報を交換していることが議事録の詳細な記載から窺える。1回は避難訓練を参加者が見学し、意見や感想等を次回の訓練に活かしており、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の参加や内容の報告、事故報告書の提出を行っている。また、地域包括センターとの情報交換や研修を通じて協力関係が築けている。	市や包括支援センターと連携し、認知症サポーターやキャラバンメイトの活動を行っている。市主催の研修等に参加したり、申請や報告等を行う中で協力関係を築くよう取り組んでいる。市から派遣された介護相談員も受け入れ、入居者支援に役立っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の委員会を中心に定期的に勉強会を開いている。各ユニット会議で取り上げ意識の向上に努めている。	身体拘束廃止委員会が主となり勉強会を開き、職員は禁止の対象となる具体的な行為を理解している。言葉での制止や声掛けにも気を配り、抑圧感の無い支援に取り組んでいる。日中は玄関の施錠も無く、入居者が自由に出入りできるため、入居者が外に出る際は見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会等で学ぶ場や機会をもち、意識の向上に努め、実践し活かしている。接遇の質の向上、ストレスケア等多角的な啓発を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会少なく、そのような研修に参加できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、主任から契約時に十分な説明を行っている。改定時は手紙にて連絡し不安や疑問点はその都度話を聞き理解し納得できるような対応を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各利用者に担当職員を設け、利用者、家族の相談窓口となり連絡を取り合い話を聞き信頼関係を築けるよう努力している。また、運営推進会議にて報告したり、それを運営に反映できるよう職員と話し合い取り組んでいる。	契約時に苦情相談窓口等を説明している。事業所は、入居者ごとに担当職員を配しており、苦情箱も設置しているが、家族は日頃から話している職員に直接要望等を伝えている。「えがお会」という家族会は、家族同士の親睦を図り、職員とも交流する機会となっている。意見や要望は真摯に検討し、改善するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日々の業務の中で話し合ったり、個人面談を行う等して機会を設け、課題の解決に繋がられるよう努力している。	日常的な会話の他に、月1回両ユニットでの合同会議とユニットごとの会議を行っており、職員が意見やアイデアを表出する機会となっている。業務改善の提案は検討し、反映している。研修受講に関しては受講料とは別にかかる費用や日当の支給など、職員が受講しやすい仕組みがある。今年度中に個人面談を予定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の状況に応じて配慮し、必要時に個人的に話を聞き、困難な部分に対しては別のかたちでフォローするなど働きやすい職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の研修に参加する機会を多く設け、個々の希望や課題を踏まえながら参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区の事業所と定期的に研修を行い、また合同行事も開催することができ交流できている。運営推進会議にもお互いに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に至る経緯や入所してからの不安等できるだけ詳しく具体的に伺い、収集した情報を職員間で共有し、利用者が安心できる対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に得た情報や、面会、電話等でも要望や意見を伺うようにし、それをケアプランに取り入れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先すべき支援を考慮し、事業所のサービス概要や特徴の説明を行い検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る範囲で家事等共に行い、利用者の意見や希望を聞き、良い関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	衣替えや必要物品の補充等の依頼する他、運営推進会議への参加や行事への参加を促し共に楽しめる機会を設けている。また面会時には利用者の状況報告を行い家族の理解を得て共に支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加したり、自宅への帰省や家族との外出を設けたり、住み慣れた町の風景を見にドライブへ行ったりしている。また行事には家族以外の参加も呼びかけている。	入居者の生活歴を聞き取り、「生活支援表」に追記している。馴染みの美容室から訪問があったり、家族・職員と一緒に以前の職場を訪ねて挨拶するなど、入居者ごとに支援している。毎年誕生日には家族と外食に出掛け祝ってもらったり、葬式、法事なども家族が同行し出掛けており、馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、トラブルがないよう職員が介入し相互関係がよりよく保てるよう努め、施設での生活を支援している。座る席の配置(場所)を考慮したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中や退所後も面会に行ったり、退所後の入院先へ必要な情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でのご様子、言動で思いを読み取ったり本人から希望や要望を聞き取り職員間で情報を共有し、意向の把握に努めている。	屋食やおやつの時間、入浴時など職員と入居者がゆっくり話せる時間を大切にしている。昔話など傾聴した内容は申し送りノートや振り返りノートに記録し、職員間で共有している。湯茶の温度や量も本人の好みに合わせている。外出の希望は、可能であればその時に出掛けており、本人本位に検討し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活の様子、身体状況、家族との関係性等、入所時の調査で把握し職員間で共有している。馴染みのある生活に近付けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活の様子や心身の状態を日々記録に残し職員間で把握できるように努めている。また口頭での伝達や日々気付いたことを振り返りノートを活用し記録するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士の情報交換や近況を踏まえて本人や家族に意向について伺い、必要に応じて主治医の意見も取り入れケアプラン会議で話し合い、ケアプランを作成している。	ケアプランに入居者・家族の希望を本人の言葉を記載し、計画に反映している。支援実績表から評価、見直しを行っており、入退院時や状態の変化があれば、医師や職員の意見を入れ、見直し計画を変更している。日頃から本人・家族の要望等を聞き出すよう心がけており、計画のもとに現状に即した個別支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や各種チェック表に出来るだけ詳しく記録を行い、申し送りノートを使用し職員の情報共有に努めている。また記録をもとに振り返りノートを使用しケアの見直しや介助の気付きについて話し合うようにしている。ユニット間でもノートを用いて情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	支援の在り方について運営推進会議や家族会でも議題にあげ取り組んでいるが、柔軟なサービス提供ができていないことがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの場所へ出かけたり地域の行事に積極的に参加したりして楽しむことができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に協力医院(かかりつけ医)について説明している。また看護師と相談できる環境も整っている。必要な場合は専門医を紹介してもらい適切な診断を受けることができる。	入居前からのかかりつけ医に継続している入居者や、家族等の意向で入居後に協力医に移行する入居者などさまざまである。受診は家族等が付き添うことが基本であるが、場合によっては職員対応もあり、受診結果は互いに報告し共有している。介護職として看護師資格を持つ職員の存在は他の職員の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の状況、様子は常に看護師が把握しており特変時はすぐに看護師に連絡、相談し指示を仰ぎ対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の医療機関に過去の病歴、特変時の経過、日頃の生活の様子等情報交換を密に行い早期退院に向けて病院、家族と連絡を取り合い今後の(退院後の)生活支援について話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期や重度化について事業所の方針を説明し家族に理解していただけるようにしている。また早い段階で利用者の状態に合わせて本人、家族と話し合いを行っている。	重度化や終末期に向けた方針があり、看取りは体制が整っていないため行わないことを入居時に家族等に説明し、同意を得ている。段階を踏んで家族等と話し合い、関係機関と連携しながら、移行先の支援を行っている。ただし、今年度中に急変のため、2人を見送っている。	今後も看取りに該当する入居者が出たり、家族等の最期までホームで過ごさせて欲しいとの要望も考えられる。医療行為が伴わない場合の看取りの課題克服に向けた協議を重ね、前向きに検討されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備えて、緊急時の対応・初期対応にいて勉強会や訓練を定期的に行っているが、実践力は個々で違いがある。緊急時対応のマニュアルを作成している。救急搬送時の情報提供書の運用を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	委員会を中心に避難訓練や勉強会を定期的に行っているがマニュアルの確認が不十分であったり、地域と協力しての訓練は実施できていない。防火自主点検を定期的に行い、火災予防に努めている。	消防署立会いの避難訓練の他に、防災委員会が中心になり年5回、日中・夜間想定自主訓練を実施している。実施後の気づき反省等も細かく検討し、次の訓練に活かしている。非常持ち出し品や水、食糧の備蓄もある。ただし、職員以外が見守りする場合に、居室入口にある番号札だけでは入居者の名前と顔を確認することが難しい。	避難訓練の様子を運営推進会議の参加者が見学しており、部外応援者が災害時に入居者の見守り等をする場合に、顔と名前がすぐ判明できるような工夫が望まれる。また、非常持ち出しファイルなど更なる工夫を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に沿った対応を心掛けている。また日々言葉遣いや対応について職員と話し合う時間を設けている。	法人内で接遇についての研修を行い、声掛けや言葉遣いに気を配り、敬語を使用している。排泄時の支援には、タオルで隠すなどプライバシー保護や羞恥心に配慮している。ホーム便りや事業所内の写真掲載の同意書も得ている。ただし、同意書の内容が大まかなものとなっている。	個人情報保護の観点から写真掲載の同意書は、不特定多数に公開する場合や事業所内の掲示など、掲載の機会を抽出し、家族が同意の可否判断がしやすいよう細かい区分を検討されることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや話を聞き希望に合った支援を提供できるよう努めている。自分の意思をうまく伝えられない自己決定が困難な利用者に対しては日々の行動、言動から思いを読み取り介護に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を聞きそれに合わせた支援を心掛けている。また、利用者ひとりひとりに合わせて買い物や外食等の外出支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服装、季節に合った装いができるよう声かけや介助を行い、外出時はいつもよりおしゃれをし出かけている。また利用者と共に買い物や散髪に行く外出支援を行っている。三か月に一回のペースで訪問美容を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の食器洗いや台拭きは一人一人の体調や状態に合わせてしていただいている。おやつ作りや鍋を一緒にする際は下ごしらえや準備、調理を職員と一緒にしている。	法人内厨房にて調理し、ユニット毎に配膳している。職員も一緒に食卓を囲み、利用者と会話しながら食事を取っている。大学生のボランティアによるおやつづくりの訪問や、厨房と連携し、事業所のキッチンで鍋や焼きそばなどを作り、利用者と一緒に楽しんでいる。誕生日や行事食も多彩で、外食は個別に希望に沿って出掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は毎日チェックし記録に残している。また個々に応じて状態に合わせた食事を提供できるよう管理栄養士と相談協力しながら行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行える所はご自分でしていただき不十分な所は職員が介助・介入し口腔内の清潔を保てるようにしている。またトラブルがあれば歯科往診にてクリーニング・治療している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により個人の排泄パターンを把握し使用する物品は必要に応じて職員間で検討を行い、家族に相談・了承を得てから使用している。また利用者ができる範囲で自分で排泄していただいている。	各ユニットには車椅子でも利用しやすい広さのトイレがあり、立位可能な入居者には職員がトイレでの排泄を支援している。排泄チェック表に記録し、定期的な声掛けで誘導している。夜間にポータブルトイレを利用する入居者も多く、使用するたびに職員が清掃し、快適な排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便の頻度・便の状態のチェックを行い、牛乳や水分の提供、体操等の適度な運動を行っている。場合によって主治医に相談し内服薬で調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2.3日に一回のペースで入浴を行っており、時間帯はおおよそ決められた時間での入浴となっている。定期的な入浴の中で楽しいと実感して頂けるよう努めている。	週3回の入浴を支援している。湯船が深く大きいため、車椅子の入居者は、足浴とシャワー浴の支援となっている。浴室も広いため、入浴前には脱衣所との温度差をなくすため、エアコンを入れるなど配慮している。入浴剤を利用するユニットもあり、また季節の菖蒲湯、ゆず湯など、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や睡眠の状態に合わせて日中も居室での休養を促し休んでいただけるようにしている。昼夜逆転にならないよう日中は活動への参加を促している。また利用者一人一人に合わせたベッド配置やベッドメイキングを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容の変更あればその都度職員間で報告し送りノートや日誌に記録し情報の共有を行っている。また一人一人に合わせた服薬介助を行い症状の変化も報告するようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いや洗濯物たたみ等の家事を自分の役割として積極的に取り組めるよう働きかけている。おやつ作り、ドライブ、外食等気分転換を図りながら楽しみを感じていただけるよう計画を立てている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に合わせてドライブ、外気浴、外食、散髪等外出支援を行っている。運営推進会議等で地域の方から得られた情報をもとに地域のイベントにも参加している。また、併設の事業所に知人に会いに行くなど、身近な資源にも協力を仰いでいる。	事業所は広大な敷地にあり、季節の花が咲くため、敷地内でも花見を楽しんでいる。外気浴しながら弁当を食べることもある。また、前日に計画を立て、煙草やビール、飴や菓子など入居者の希望に沿って、一緒に買い物に出掛けており、車椅子での外出は専用の車輛を利用している。利用者の希望する理美容室へ出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本お金は職員で管理しており一緒に買い物に行き支払いする等自分の金銭であると実感されるよう配慮している。また本人や家族の希望で預り金と別でお金を所持されている利用者もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や利用者の希望、要望に合わせて電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な掃除を行い施設内は清潔に保たれている。居室、ホールの温度・室温も随時チェックし調整を行い快適な空間づくりを行っている。また利用者が作成した貼り絵を展示したり、季節に合ったものをホールに飾っている。	リビングから広い庭園が見え、明るく開放感がある。手作りの貼り絵や入居者の筆書を壁に貼り、入居者が好みの場所で寛いでいる、洗濯物たたみや食器洗いなど、本人自ら家事を担っている様子が窺え、家庭的で居心地よく過ごせる工夫がある。掃除も行き届き清潔感がある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日々の利用者同士のやり取り等観察を行い、気の合う利用者同士で過ごしていただけるよう随時ソファや食席の配置の調整を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みある家具(タンスや棚、椅子等)を持ち込んだり、家族写真等飾ったりし居心地よく過ごされるよう工夫している。家具の配置も本人の希望に合わせてセッティングし見える場所、届く範囲での設定を行っている。	居室は加湿器、ベッドと整理タンスが備え付けられ、自宅からテレビ、机や椅子などが持ち込まれている。壁には家族の写真や書、ポスター等好みに貼ってあり、それぞれ部屋に個性がある。掃除は入居者と職員が一緒に掃除機やモップ掛けを行い、清潔で気になる臭気も無く心地よい環境である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活、移動等安心して安全に生活できるよう車いす自操や歩行しやすい広さを十分に取り、足元や物の配置等に気をつけている。また角の尖った手すりにはカバーをしている。トイレなどにはわかりやすく「お手洗い」と貼り表示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202270		
法人名	社会福祉法人 江寿会		
事業所名	グループホーム サンホーム江上 Bユニット		
所在地	長崎県佐世保市江上町4847-10		
自己評価作成日	平成28年12月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念を目指し自立支援を行い、出来る事をしてもらうことで、やりがいや喜びを感じてもらっている。豊かな自然環境をいかし、野菜作りや散歩、花苑でのハイキング、花見など行っている。地域との関係を築くために、積極的に地域や学校の行事に参加しており、夏祭りにはボランティアも多い。他事業所とは鍋会、焼きそば会、風船バレーなどで交流をおこなっており、運営推進会議にも参加している。認知症の啓発のキャラバンメイトの活動、ラン伴の参加も行っている。併設の特養との研修、勉強会などでスキルの向上、看護師との連携、またリフト車やワゴン車の使用が出来る事で全員でのドライブ、数名での行事の参加もおこなっている。外部の研修など積極的に参加でき、アンケートの実施などで職員の見解もとりに入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を身につく所に貼り、職員の意識を高める会議を行っておりそれを実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動に参加したり意識づけているが機会は多くない。地域の運動会や祭りなどに参加して交流に努めている。地域と離れたところにあるが交流の機会を努めて作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や介護教室を開催し、またキャラバンメイトの活動を通して地域団体や学校に向けて、認知症の理解の普及に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域の方々に事故やそれに対する対策、また疑問や要望に応えたり職員の研修、個別支援の報告を行っている。地域の方々より催し物の案内を頂き出来るだけ参加するようにしている。大学生の実習を受け入れ、夏祭りなどにはボランティアとして		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとの連携、また市への事故報告書の提出、キャラバンメイトの活動も市との連携で行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会が中心となって研修を行ったり勉強会が年2回程あり身体拘束の無いケアに努めている。拘束の対象となる行為を勉強会などで理解しており、施錠や拘束の無いケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の研修に参加したり委員会を中心に「尊敬」の心を持ち虐待は絶対あってはいけない行為と考えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修では学ぶ機会はあるが理解するまでにはいたっていない。認知症ケアに置いては必要不可欠と日常生活支援事業や成年後見制度は学んではいるが活動支援までは至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、改定時に本人、家族が誤解されないよう要所所で確認を行いながら十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当の職員を中心に家族との信頼関係に努めている。また苦情や意見も職員全体でうけとめ運営推進会議の折にも他のグループホーム等の意見を伺っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、個別面談を行っている。今年度は職員を対象としたアンケートを実施して、ハード面ソフト面でも代表者や管理者が職員の想いを把握し改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アンケート等を行い現場の声を聞きながら、環境整備に努めている。努力や実績を認めて、ステップアップできるようはたらきかけがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修には積極的に参加させてもらっている。研修報告として復命発表等で職員に報告し実践に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区事業所との交流会や利用者と参加できる風船バレー、ラン伴に参加したり、運営推進会議には他事業所の職員も参加し意見を聴く機会も設けてある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者を中心にさりげなく困った事、不安な事を聞いたり、それまでの生活を本人から聞いて安心して暮らして頂けるように努めている。笑顔を決やさないように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者や担当者が面談をして話を伺い、家族が何を望まれているか理解するようにしている、連絡は直ぐに行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者との面談時の情報などで、担当者を中心に必要とするサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はしてもらい、利用者間でも自分の友人や家族に近い感覚で一緒に協力して暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護の対象者としてではなく、人生の先輩として尊敬あるケアをするように努めている。家族には状況を報告して行事への参加にて一緒に過ごす時間を提供している。不安や苦情なども聞くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事への参加、買い物など希望に合わせて支援している。馴染の美容室の利用継続や、以前勤めていた仕事場訪問での家族や知人とのふれあいなどの支援に努めている。思い出話や写真を見せてもらったり家族と利用者の関係もきずけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースでは場所は決まっておらずその日によっていろんな方と過ごされている。関わり合い、支える関係に努めながらも、多少のトラブルは避けられないが、相性を把握し未然に防ぐように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も見舞いに行ったり、家族が来所される。相談があれば支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話した内容や発言等を記録し職員同士で共有し本人の希望や意向に添えるように努めている。困難な場合は会議などで話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活状況を把握できるように記録や家族の話しから情報を集め、職員間で情報交換している。使い慣れたものを持ってきてもらったり馴染みの暮らしが出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から観察を行い変わったことがあれば、看護師に報告し医療への連携に繋げている。出来ることを奪ってしまわないように現有機能の継続に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人に合った介護をするように職員間で意見、アイデアを出し合い、また家族や本人からの聞き取りを行い、サービス担当者会議を開き介護計画に繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録、申し送りノートにより職員間で状況を把握し現状に応じた介護計画に生かしているグループ(A・B)間では交換ノートを活用しお互いのユニットの状況も把握できるように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営推進会議、家族からの情報などで行事に参加したり、ドライブ、花見など季節やその日の状況に合わせ勤務の調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や知人の面会、家族の仕事場に出かけたり、家族が散髪をしてくれたり地域の催し物に出かけたり生活支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を受診し家族の希望する医療機関に紹介状を出してもらい医療を受診できるように支援している。かかりつけ医の話は家族に伝え状況を把握してもらうように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付きや変化があれば看護師に報告し適切な受診や看護が来ている。また交換ノートで他ユニットの情報もお互いに共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーや看護師などと連携をとり医師からの情報も家族と共有し、早期に退院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を入所時に伺い、医療機関との連携行っている。ターミナルケアは行っていないので早期に意向を訪ねている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルはあり研修などで実践力を身につけるように努めているが職員間のスキルには差がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に火災訓練を行い防火自主点検も行っている。地域の消防署で災害の研修を受けるなど意識は高まってきているが、地域との協力体制も含めて地震、水害対策は万全とは言えない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室のポータブルトイレにはカバーを掛け、排泄介助時にはプライバシーに配慮してタオルで隠すなどしている。飲み物は個人の趣向に合わせて提供している。職員ベースの言葉かけが聞かれるときもある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望は出しやすい環境を作っており出来るだけ浴えるよう支援している。想いを表出できない方を理解できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな過ごし方はそれぞれのペースを大切にしているが、入浴など決められたタイミングになるときもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪、カット、白髪染肌のケア用品など本人の希望に沿っている。家族が面会時にカットしたり、連れて行ってくれることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房から提供しているが誕生日には手書きのカードを付けてくれる。鍋会、焼きそば会を他事業所と合同で行い野菜は包丁が使えない方はちぎったり出来る事を支援している。実習生とのおやつ作りもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と相談し補助食品の提供や形態を決めている。水分はおやつは、食事以外でも提供し好みに合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは行っている。自力では困難な方は介助し、イソジンでのうがいも行っている。毎週口腔ケア用品の消毒も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表にて排泄パターンの把握し、日中は全員トイレでの排泄を支援している。夜間の転倒リスクある方でもポータブルトイレを使いたくないと意向を持たれている方は、トイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や毎日の体操、ココナッツオイルを家族の希望で取り入れたり、火、金には麦ごはんを提供しているが便秘薬を調整しながら服用している方も多い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は希望に添えないが順番や湯の温度、足浴など気持ち良く入浴できるように努めている菖蒲湯で季節も感じてもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファでくつろいだり居室で臥床したり、お一人おひとり思い思いに過ごし、エアコンや寝具の使用もその方に合わせている。入床時間もそれぞれのペースに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変更や追加時は連絡帳、受診記録で確認し、また誤薬がない様に何重にも確認をおこなっている。しかしすべての薬の副作用までは把握していない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	介護計画のなかで本人、家族の意向を取り入れ、出来る事をしてもらい生活に張り合いや喜びを感じる支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や日光浴は希望時に出来るかぎり行っている。季節ごとに花見、かかし見物、花苑でのお弁当会なども行っており。家族の希望にてハウステンボスと一緒に過ごせるような個別支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方には定期的に入金し買い物できるよう支援している。その他の方は職員で管理し必要に応じて買い物支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持参し自由に電話している方もおられる。電話の取次ぎは希望に添っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に心掛け、トイレや居室には貼り紙や表札を掛け解かりやすい様にしている。行事には飾りつけ季節の花を飾っている。エアコン使用や換気など個人に合わせて調節している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとり一人の相性やその時の気分を配慮し快適に過ごせるように支援している。居場所の工夫をしているが口論等のトラブル時々みられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やアクセサリを持たれている方、自分の好みに写真を飾りなど飾っている方もおられる。出来ない方は担当の職員が嗜好などを伺いながら家族、季節、行事の写真などをかざっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮し家具など配置している。手摺があるがうまく活用できていない。		